

寺報

傘かえで

No. 12

発行

遍照山慈光寺
久慈市大川町22
TEL 55-2660

法話

お釈迦さまの教え 「人生は苦なり」は 仏教の出発点です

お釈迦さまは、「人生は苦なり」と説かれました。これが、仏教の教えの出発点なのです。

物事が行き詰まった時の状態を「四苦八苦」といいます。

四苦(四つの苦)とは、「生老病死」の四つの苦のことです。

八苦とは、生老病死のほか、「愛別離苦」(愛する者と別れる苦しみ)、「怨憎会苦」(怨み憎む者と出会う苦しみ)、「求不得苦」(求めても得られない苦しみ)、「五蘊盛苦」(肉体と精神を構成している五つの要素が燃え盛つ

ている苦しみ)を合わせた八つの苦しみのことです。

つまり、「四苦八苦」とは、このよう
な苦しみに、胸を苦しむさまをさしてい
る言葉だけのです。

人間は苦しみから

逃れることはできない

お釈迦さまは、人間はどうしたらこの苦しみから逃れることができるかを追究するために出家し、修行されたと言われます。

その答えは、**所詮人間は、苦しみか**

ら逃れることはできない」と言うことでした。

お釈迦さまは、人間はどうしても苦しみから逃れることができないのだから、救いの道はただ一つ、「苦しみから逃れたいと言う欲求を捨てなさい」と説かれました。

苦しみから逃れたいともかくから、よけい苦しみが増すのだ。苦しみを苦しみとしてあるがままに受け入れたときに、はじめて苦しみはおさまるのだ」と言う教えであります。

しかし、この教えは、頭で理解することはできるかも知れませんが、いや実践するとすれば、凡人にはどうも無理な話です。

このことについて、時宗は次のように教えております。

念仏を唱えれば だれでも極楽往生できる

「南無阿彌陀仏」と一心に念仏を唱えれば、どのような人でも極楽往生できると言う時宗の教えは、そのようには凡人も救済される道を示しております。

この教えは、私たちの心に生ずる不安は、極楽におられる阿彌陀さまが必ず解決して下さると信じて、日々の生活を充実して生きなさい」と言うことであります。

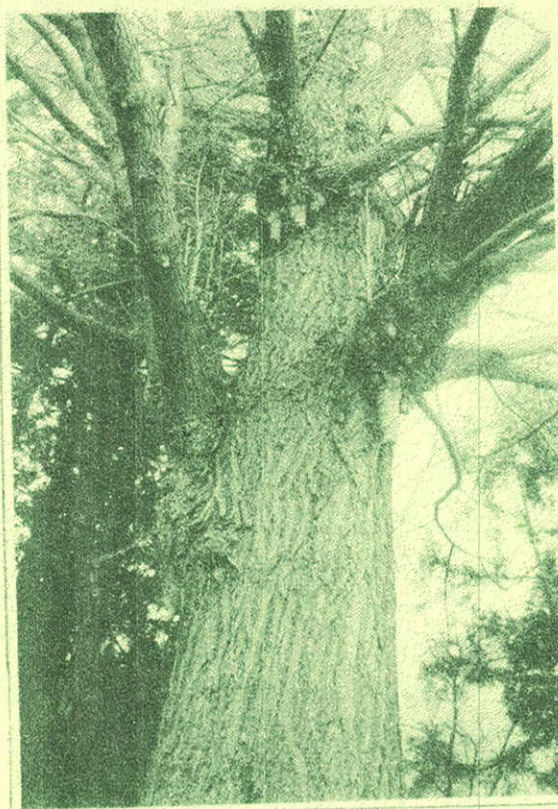
日々たゆまず念仏を唱え続けることによって、私たちの「生」そのものは、阿彌陀さまの「命」の中に育まれて行くことを信じて精進いたしましょう。

(副住取 高谷 剋行)

樹孫公大

本堂裏にある庭園の一角に高くそびえる大イチョウ。樹令500年とも言われ、毎年黄色い実をたわわにつける。

慈光寺百景 ⑤



福島県内時宗寺院巡拝旅行

時宗2寺院を巡拝

檀信徒32名が参加し和やかに

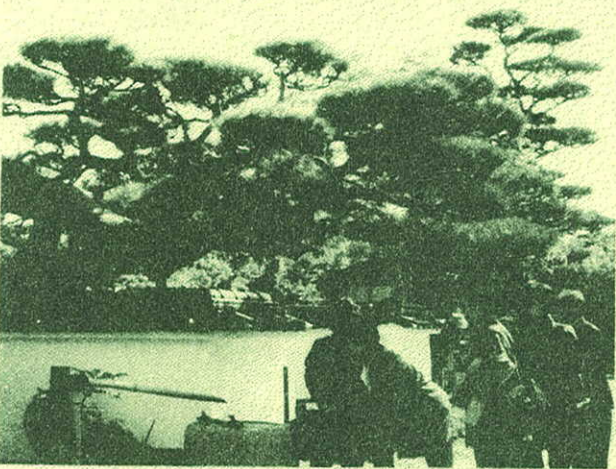
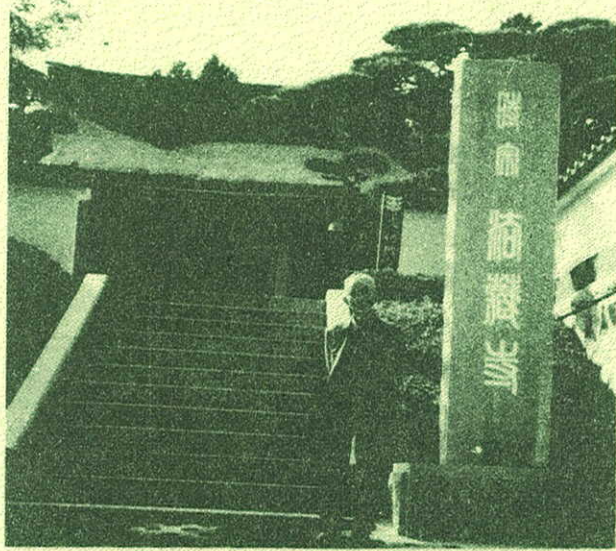
慈光寺恒例の檀信徒親睦旅行は、10月6・7・8日の3日間、福島県内の時宗寺院巡拝をメインに実施されました。農繁期にもかかわらず、三二名が参加し、研修と親睦を深めました。

第一日目は、福島県三春町にある法蔵寺(時宗)を参拝しました。

法蔵寺は、昨年末に全面新築したお寺で参拝の後、建物や境内を見学しました。その後、猪苗代湖、世界ガラス館、酒蔵博物館を見学して会津若松市に宿泊しました。

第二日目は、会津若松市の弘長寺(時宗)に参拝しました。

その後、鶴ヶ城・飯盛山、松原湖・五色沼、磐梯吾妻スカイライン等を観光して飯坂温泉に宿泊しました。第三日目は、二本松市の菊人形まつり、信天山等を観光し無事日程を終了しました。



【写真】 上 法蔵寺の本堂
下 旅行団が参拝する時宗寺



【写真】 会津鶴ヶ城を見物する旅行団

旅行記

父の想いを胸に 楽しい参拝旅行

松井端 千ヨ

私は、町内のみなさんと一緒に旅行することは殆どなかったため、退屈した仲間に入れていた。ところが思っていたところ、青名畑タツさんから「あなたのお父さんが本山参拝を希望しておりながら事情ができて行けなかったんですよ。あなたかその思いを果たしてあげたら」と誘われたのが七年前の本山参拝旅行でした。

寄進 ぐ披露

庭木(イチイ) 一本

戸呂町 高成 定義

庭木(イチイ)の植付作業

田中 (株)竹花建設

あつと、厳かな説経の中で参拝し、精進料理をいただいたことが印象に残っています。

今回は、二回目の参拝旅行でした。

初日、三春の法蔵寺を参拝しましたが、全面新築したばかりのお寺でした。

参拝の後、新築にもなつ和尚さんのご苦勞や檀家のみなさんの協力のおかげで、お寺の歴史等を伺うことができました。

慈光寺よりも檀家の数が少ないお寺なのに、すごいなあと感じました。

和尚さんのユーモアまじりのお話、おいしい茶菓でのあたたかい接待は大変嬉しく思いました。中でも、手造りの梅漬けのおいしさは格別で、私は、二個も三個もいただきました。その上、作り方で教えていただきました。

終始和やかで見聞を広めることができ、有意義な旅行でした。また、参加したいと思っています。